

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立桂中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 6クラス 230名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (総合的な学習の時間) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	車いすバスケットボールの選手との交流を通して障がいのある人たちと共生する社会を考える。 車いす使用体験や体験談を聞くことを通して、だれもが気持ちよく生活するために必要なことについて考える。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットのデモンストレーション 約15分 ・車いす体験（コーンを置いて、ジグザグに前に進み、ターンをして後ろ向けで帰ってくる。全員） 約30分 ・車いすバスケット体験 (各クラス男女別5名が代表として参加) 1試合3分 約25分 ・講師の方の体験談 約30分 ・教室に戻り感想 約10分 <p>別日に振り返り授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験談を振り返る ・DVD視聴（「あゆのメッセージ」：主人公のあゆさんは生まれながらにして手足が不自由で見た目や歩き方も違う人の生き方に迫る内容。） ・社会に目を配り「共生」の意味を深め、現代社会における課題、疑問に迫る班討議をする。 (中学校は車いすの生徒が生活しやすい環境になっているか？自分たちの小学校は？) その疑問や課題に向けて自分たちが出来ることは何かを考え「共生」の理解を深める。

6 主な成果	人権学習の一環として活用させていただきましたが、パラリンピックを前に、障がいのある方たちとどう「共生」していくのかを考える大きなきっかけとなった。車いすバスケット選手の話やプレーを見ることで、競技への関心やパラリンピックへの関心も深められた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	車いすバスケットの方々の姿を見て「すごい」「カッコ良い」だけで終わらすことなく、障がいのある方たちとの「共生」を目指し、現代社会の中に見える課題と疑問に気づかせるために、事後学習を設け、学習を深めさせた。
8主な課題等	「すごい」「カッコいい」だけで終わらせない工夫をするべきで、教職員の研修を深められたらと思いました。
9来年度以降の実施予定	現時点では未定ですが、前向きに検討していければと思います。